

差別交番を 指導科長自ら暴露！！

小交番制が導入されて、ずいぶんと月日が経過しました。
導入当初から、組合に対する「色分け」が鮮明な組み分けの交番でした。特にホーム検査のあった当時の4組は「色分け」の最たるものでした。

1組は、列車長をはじめ、ユニオンが主体の組で、2組はユニオンの若手と、国労組合員、一部東海労で、3組は、ホーム検査が解消された当時の東海労組合員が軒並み名前を連ねています。

この組み分け（色分け）は、名古屋運輸所（東海労のいない職場）を除いて東一輸、東二輸、大一輸も同様です。しかも共通していることは、東海労から脱退しユニオン組合員になると必ず3組から2組・1組へ、2組から1組へ組み替えされています。（昨年12月に脱退したH・I君も1組間近かな？）

勝見指導科長は、3組から2組に組替えになる運転士に「勤務成績が下がったらまた3組に戻すからな」と3組にいる運転士が勤務成績が劣っていることを公言しました。・・・差別、問題発言だ！

先日、2組にいた東海労組合員が、勝見指導科長に呼ばれ、この7月から3組に組替えになることを告げられました。

この組合員は、4月25日に名古屋～名古屋両間担当列車に石川運輸営業部長が添乗して、入換中に精神的に運転に集中出来ない状態をつくられるなど危険行為を繰り返され、そのことに対して分会は、情報で明らかにし、近畿運輸局に訴えてきました。

まさしく今回この組合員に対しての組替えは、会社からの報復であると言わざるを得ません。

**交番の組み分けを利用した
組合差別を許さない！！**